

「初期經典にみられる仏弟子の表現」（レジュメ）

並川 孝儀（佛教大学）

初期經典をはじめとして仏教の諸文献には、仏教成立の当初より仏教教団はゴータマ・ブツダを頂点とし、仏弟子はゴータマ・ブツダの従者と位置づけられている。サーリプッタやマハーモッガラーナなどに代表される仏弟子などは、ゴータマ・ブツダを常に支える脇役として説かれ、また宗教的な立場もゴータマ・ブツダに到底かなわない存在として表現されている。そして、実際に伝承の内容がほぼそのまま歴史的事実として理解されている。しかし、このような仏弟子はすべて当初からそのような関係によって描かれる存在であったのか、或いは後代の所産の結果によるものかという疑問も残る。確かにゴータマ・ブツダを頂点とした構造は教団上からは当然と見られなくもないが、とりわけ宗教上の視点からは、そのまま受け入れられない要素も数多く見受けられる。

筆者は、その宗教的側面から初期經典の中でも韻文資料を中心として、ブツダと仏弟子との間に相違があるのか否かを、煩惱の滅尽、輪廻、再生、三明、神通、解脱、彼岸、涅槃などの表現を通して比較検討し、その結果を既に発表している。仏弟子といっても理想的な修行を遂行したすぐれた弟子を指すのであるが、その結果、表現上からブツダと仏弟子の内容にほとんど差異がなかったことが判明した。仏弟子が宗教的境地においてブツダとさほど変わらず表現されていることを知る時、ブツダと仏弟子の差異は何であるのかという興味が湧いてくる。

しかし、すべてが共通しているわけではなく、ブツダだけにあって仏弟子にはない表現もある。これこそは、おそらく固有名詞としてのブツダ、即ちゴータマ・ブツダだけに用いられる表現と解釈でき、ゴータマ・ブツダ固有の宗教的属性を知る上で重要である。それは「太陽神の末裔」や「師」の用語の他に、他者を悟りへの世界に導くといった救済の行為を示す表現であった。つまり、ブツダだけに見られるこうした表現以外は両者間でほとんど共通していることが判った。

さて、本発表ではこのような宗教的表現とは異なり、教団上から見た両者の関係を示す用例について初期經典の韻文資料を中心に眺めてみたい。この表現は、要するに仏教教団におけるブツダと仏弟子の立場の相違、つまり両者間の上下関係と主従関係を明確に示したもの

他ならない。また、ブツダの教えは仏弟子に伝えられ継承されていく主従の関係も示されている。このような関係は、疑うまでもなく仏教教団を形成する大前提と見做しうる立場である。こうした関係を示す用例を具体的に見ながら、原始仏教におけるブツダと仏弟子の関係や仏弟子の意義を考察したい。